

第5回 栃木県立馬頭高等学校 学校運営協議会 報告

I 開催日時 平成31年3月13日（火） 13:30～16:00

II 開催場所 栃木県立馬頭高等学校 会議室

III 出席委員 大金 市美 岡 道吉 大金 武夫 大金 浩 小川 浩子
小川 正典 田島 良久 益子 洋子 笹沼 達彦
欠席委員 大島 富美子

IV 内 容

1 開 会

2 協 議

(1) 学校評価について

○ 校長より説明

- ・3年生の進路状況 就職7割（管内23名）進学3割（例年通り）水産科は県外多数
- ・生徒指導状況、水産科の取組状況～海の宝コンテスト本選進出・馬頭小中水槽展示等
- ・なかがわ学発表会は好評であった
- ・現状では下宿は不足していないが、今後も下宿の拡充を考えたい
- ・広報なかがわ4月号より学校紹介掲載
- ・学校案内をメディアアーツに委託
- ・学校HPの改良継続（馬頭中・町役場のHPにリンク）
- ・下野新聞社様に多く取り上げていただいた
- ・入試結果：普通科70名水産科22名合格～定員は満たしていないが昨年より倍率改善（質疑応答）

○ 水産科の取り組みの成果は広報なかがわやなかテレビでPRしているのか。

ーしていないので今後PRしていきたい

○ 役場の脇に横断幕を掲示している。

○ 進路について、今年度馬高からJA職員が1人入って嬉しい。町役場にも毎年1, 2名は採用してもらえるような取り組みをしてほしい。

家庭学習について、アンケートから親にこどもに勉強しなさいと言ってもらえるような教育をしなければいけないのではないか。

○ 町役場に馬高生が受けに来ない

ー難しいと敬遠しているところがある

○ 馬頭中の水槽の設置などで中学生が水産に興味を持っている。馬高生をゲストティーチャーとして総合的な学習の時間に招きたい。発表の時に小中高と連携してやっていければいい。

○ 馬頭東小にも設置してほしい。

ー可能であれば他校にも水槽を提供したい。

○ 校務分掌にPR担当の係は作ってあるのか

ー教員数減少の関係で難しいところもあるが地域連携教員を通じて行う。

○ 10年前から関わっているが生徒の見た目が大きく変わった。生活面ではすごくいい高校である。定員を満たさなかったことや役場職員に採用されないことは残念である。もっ

と学力の上がる取り組みをしてほしい。

- 実際に子どもに勉強をしろというのは難しい。
- 社会人になると難しい資格も実際に生活にかかってくると必死に勉強する。
 - ー 1年生からのキャリア教育の充実が肝要であると考える
- アンケートで進路についての情報提供が、教員は半分が十分に情報提供しているというが、生徒は36%、親は20%程度と齟齬が生じている。
 - ー すぐに進路が決まった子は進路の情報に触れる機会が少なくなるという面もあるのではないか。
- 部活が低迷しているということは転機が来ている。今まで通りのような部活動では通用しなくなるのではないか。小規模校ならではの部活動の在り方を考える必要がある。
- なかがわ学発表会が素晴らしかったという言葉がたくさんいただいている。今後も継続してもらえればよい。
- 町の様々な事柄についてよく学習している。今後は、町の課題解決にも取り組んでもらいたい。

(2) 平成31年度学校運営方針について

- 校長より説明
 - ・ カヌー実習や強歩大会など伝統的な行事に対する安心・安全の確保を目指す。
- 目指す教員像もあった方がよい
- なかがわ学発表会を今後も続けていくのだろうが、学習内容について今後の那珂川学の見通しはどのようになっているか
 - ー 今後は町の課題を取り上げていくが、課題は年々変化していくので経年変化を見ていただければ。
- 学習指導要領の課題もあるかもしれないが、この学校独自の魅力的な取り組みを行って欲しい。

(3) 学校の魅力化、特色化について

- なかがわ学発表会を多くの中学生に見てもらえればよい。
- もっと多くの方が観覧できるよう学校で開催してみてもどうか。
 - ー 普段と異なる華やかな舞台上で発表する意義も大きい
- 様々な町行事での水産科の出店の場所が悪い。幟立てを作ってもっとPRできるようにイベント事務局をお願いをしてみてもどうか。
- 関係各所も今回の会議に参加されているのでぜひお願いしたい
- 学校祭での水産科の観覧者が多い。興味深いのもっと広めてみてはどうか。
- 以前プールでニジマス放流もしていたが、今はどうなっているのか。
 - ー プールの施設改修で放流実施は難しくなった。
- 以前農業科があった時は品評会といって生徒が自宅で作った野菜を売って、町の人でにぎわっていた。
- 家政科があった時は食堂があったりと町の人も楽しみにしていた。
- 青雲館を改修して、地域の方が気軽に学校に来られるような空間を作れないか。コミュニティスクールであることもあるし。
- クラウドファウンディングや生產品の販売等について、県からの制限があつていろいろできないことが多い。
- 馬高生が作った魚醤を民間企業に生産してもらえることはすごいことだ。

- コース制を敷いていく等、ニーズの把握が必要。農業指導を地域の方に週数回やっても
らうようなこともありではないか。
ーコース制は学校の裁量。生徒が望んでいるかどうかによる。
ー校外指導者による通年の農業指導は栃木県では実施していないが神奈川県等では実
施している。
- 生徒にどのようなことをやりたいかアンケートをとっているか
ーとってはいない
- 生徒の要望を聞くことも大切だが、地域としてどのような人材を育てたいかというビジ
ョンが必要だ。
- 地域を愛する子どもを育てるとあるが、そこに加えていくことができるのでは。
- 農業委員で話が出るが農業の人材がいない。
- 再募集をできるように日光明峰が県に要望を出しているが、本校にはなじまないだろう。
35人学級にできないか。教員定数との関係もあるが、不足する面は資金的な面で町に援
助をもらう等でできればよい。
- 再募集は本校には難しいだろう。
再募集の制度があるとかえって最初の出願が減ってしまうのではないかとして日光の議
会では否決された。
- 学級定数減を県にお願いしたい。40人では八溝地区の学校は皆閉校してしまう。30
人学級がよいのではないか。
国の法律では40人だが、義務の35人学級は不足分を自治体で出している。馬高のみ
ならず県立全体でもできないか。
- 義務でも手がかかる生徒がいるので町が負担して補助教員を出している。高校でも同様
ではないか。
- 大内小（小規模学校）では10人くらいの生徒が1人の教員でみていたが、目がよく届
く。40人になると目が届かなくなる。
- こぼれてしまった子が馬高に来ている。先生方がよく見てくださって、しっかり卒業し
ていった子がいる。
- 現在、定員割れして少人数学級になっているが、このまま定員割れになると閉校という
流れになるのは困る。少人数学級について今後も議論が必要だ。
- 学区制の廃止により、こどもの流れはどのように変わったか。
ー少し流動的になったが基本的な学区に通うことには大きな変化はない。
- 学区制の廃止により那珂川町の中学生在が町外に出ているのではないか。
- 基本的には管内高校だが、宇都宮指向、矢板指向はある。作新など私立単願も増えてき
ている。
ー修学支援金制度など私立のハードルが下がっている。
- 下宿提供の取り組みはどうか
- 馬高活性委員会で下宿バンクの取り組みとして、なかテレビにテロップを流しているが、
申し込みはない。個人的にお願いしても効果は低いので、下宿バンクを信頼度の高い役場
で実施してもらえよう町長に要望書を出した。
- なかテレビで馬頭高校の宣伝のために番組を制作すると費用がかかる。ニュースであれ
ば費用はかからない。
ーこれからこまめに学校行事について情報を提供する
- アンケートで資格取得について生徒も保護者も関心が高いが、馬頭高で取れる資格をも
っとアピールする必要があるのでは。
ーHP等でもっとPRしたい。どういう資格を企業が求めているか。

- 職種にもよるが、食品関係であればHACCPがあればいい。
- シボレックスでは最低でも危険物乙4が欲しい。クレーンはお金がかかるが、やる気があれば取れる。
- 水産科の卒業生は専門的な知識があり、重宝されている。企業の方から直接具体的に必要な資格名や体験談を話してもらいたい。
 - －進路では卒業生を囲む会等で話をしてもらっている。

(4) 平成31年度学校運営協議会について

- 委員の入れ替えについて
 - 委員の任期は2年だが、諸事情により入れ替えを実施
- 来年度運営協議会の回数、実施期日
 - 全体会5回→4回、分科会1回
 - 1回目は5月の中旬から6月上旬予定

(5) その他

3. その他

報告書作成について

4. 閉 会